九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学百年史 第7巻 : 部局史編 IV

九州大学百年史編集委員会

https://doi.org/10.15017/1801803

出版情報：九州大学百年史. 7, 2017-03-31. Kyushu University
バージョン：
権利関係：

第 65 編

学術研究推進機構

第 1 章　高等研究機構

第 1 節　設立趣旨・沿革

2000（平成 12）年 5 月 13～14 日の 2 日間にわたり、九州大学主催により「大学サミット・イン・九州」が開催された。このシンポジウムは、世界 7 か国 8 大学の総長等が参加し、個々の大学が個別に模索している多くの共通課題を議論し、知的存在感のある大学を目指した提言を行うことを目的としたものであった。

この中で「大学サミット・イン・九州」2000 年宣言が採択された。その宣言において、大学における教育目標としては、時空を超える不変の真理と人類の叡智を探求し、健全な精神を養い、人類の未来を開拓する知識と技術を洗練し、かつ、地域と国際社会に積極的に貢献する人材を養成することが謳われている。また、研究目標としては、古くから人類が営んできた真理追究の努力を継承し、それを未来に伝承する使命を自覚しつつ、伝統的な性質とともに独創性と先進性を備えた研究を目指すことが謳われている。さらに、大学における国際交流事業の達成する役割がこれまでになく重要になっていること、大学における教育と研究の成果が民族的、国民的および宗教的集団間の理解、寛容および友好を促進すべきことも強調された（資料編Ⅲ－867、pp.1046-1048）。

九州大学では、このシンポジウムの成果を受け、九州大学を国際的な知の拠点とし、教育研究面での国際的な競争力を従来にも増して高めるために、「高等研究機構」と「国際交流推進機構」の 2 つの機構を設立した。

高等研究機構は、総長を機構長とし九州大学を世界で有数の中核的研究拠点とするための将来戦略を策定し、COE 研究として相応しい多様な研究グル

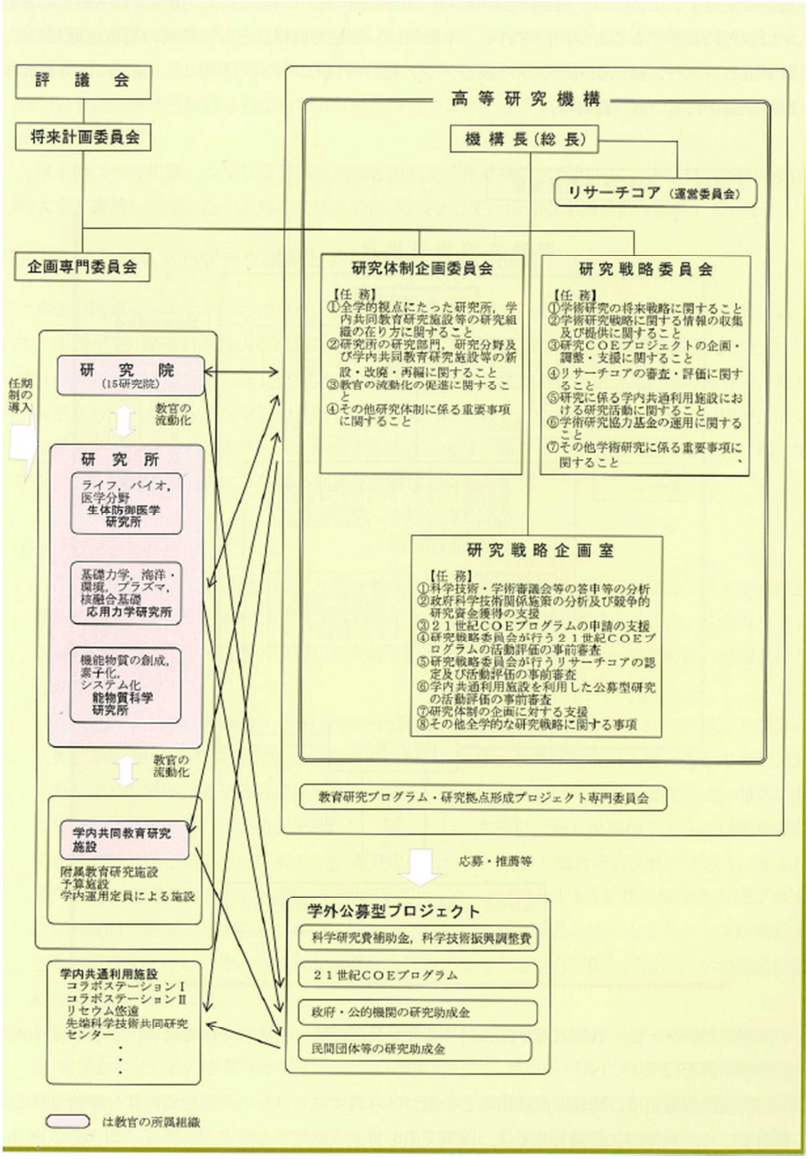

図 65-1 高等研究機構（2002 年 12 月現在）

ープの組織化を促進することを目的に 2001 年 9 月に設置された。具体的には、未来戦略型研究テーマの選択と展開法、優れた基礎研究と応用研究の奨励、研究拠点大学を支えるための人材育成法、大学の知的財産の社会への還元・情報発信、これらの活動に要する研究資金の獲得方法などの諸課題を検討する。

高等研究機構は、全学的視野に立った研究所・学内共同教育研究施設等の研究組織のあり方等を検討する「研究体制企画委員会」、学術研究の将来戦略等を検討・立案する「研究戦略委員会」、および戦略的研究企画を機動的・積極的に推進する「研究戦略企画室」で構成されている（図 65-1）。また、COE 形成に相応しい研究グループとして認定された組織（学内措置の研究組織）として「リサーチコア」を設置できることとなっている（資料編Ⅲ－700、pp.295-296）。

2005 年 4 月に学内の委員会の再編が行われ、研究所・学内共同教育研究施設等の研究組織のあり方や、5 年ごとに研究組織の点検・評価を行い、10 年を経過した時点で当該研究組織の継続もしくは廃止または再編・統合を行う「5 年目評価、10 年以内組織見直し」制度について、企画専門委員会が所掌することに伴い、研究体制企画委員会を廃止した。また、教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（P&P）の実施等を行う「教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト専門委員会」を廃止し、その任務を研究戦略委員会に移管した。

2006 年に文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進事業」に「次世代研究スーパースター養成プログラム（SSP）」が採択された。SSP に採用された若手研究者に対しては、部局から独立した支援体制を構築し、他の研究者からの支配的干渉を抑制する観点から、SSP 特任准教授の所属組織として、高等研究機構に「若手研究者養成部門」を設置した。

2007 年 7 月に競争的資金による特定の大型研究プロジェクトの実施にあ

たり、その実効性・迅速性・柔軟性を確保する観点から、総長直轄の特定大型研究プロジェクトの拠点を機構内に設置することができるよう関係規定の整備を行った。同年 8 月には科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」の採択を機に「女性研究者支援室」（2009 年 7 月に女性研究者キャリア開発センターに拡充改組）を設置した。

2009 年 10 月に、九州大学が世界的研究教育拠点として学界をリードする卓越した研究成果を挙げるために、分野を問わず、九州大学の誇る優れた研究者のうち、その専門分野においてきわめて高い研究業績を有する者、ポスト・プロフェッサーおよび九州大学の次世代を担う若手研究者が実質的かつ高度な研究活動を展開する場として、全学的な協力体制のもとに高等研究院が設置された。高等研究院の設置に伴い、高等研究機構を「学術研究推進機構」に改名するとともに、SSP 特任准教授の所属組織を高等研究院に特別准教授として異動させることから、若手研究者養成部門を廃止した。

知的財産本部、産学連携センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーおよび各部局が連携して、九州大学の研究成果を社会に還元するとともに、産業界等からのニーズに関する情報・支援等を受け入れ、九州大学の教育研究の高度化･活性化を図ることを目的として､1998 年に｢産学連携推進機構｣が設置された。2011 年 4 月に学術研究推進機構と産学連携推進機構を統合し、学術研究の将来戦略等の策定、産学連携のための研究戦略および学術交流、COE 形成に相応しい多様な研究グループの組織化、共同研究成果の技術移転の推進を目的として「学術研究推進支援機構」を設置した。

第 2 節　リサーチコア、大型研究プロジェクトの拠点

リサーチコアは、九州大学が世界有数の COE 拠点となることを目指し、COE 形成の推進に相応しい研究グループを認定し、研究活動・研究費申請・

人材流動化・講演会などの対外活動を支援している。リサーチコアは、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテク・材料、エネルギー、製造技術、社会基盤、フロンティア、学際・複合・新領域の 9 分野で、2011 年度までに次の研究グループが認定された。

表 65-1 リサーチコア一覧

分　野	リサーチコア名	設置期間
ライフサイエンス	生活習慣病リサーチコア	2002.5.24～2015.3.31
	遺伝子・再生医療リサーチコア	2002.5.24～2007.5.23
	動脈硬化に関する先端的研究リサーチコア	2002.5.24～2016.6.30
	難治性感染症リサーチコア	2002.5.24～2012.5.15
	脳病態科学リサーチコア	2002.5.24～
	痴呆の発症・進行抑制への臨床的アプローチリサーチコア	2002.9.20～2007.9.19
	歯科再生医療の総合的開発リサーチコア	2003.4.18～2010.6.8
	システム創薬リサーチコア	2004.11.19～
	生体工学リサーチコア	2002.5.24～
	生物情報学リサーチコア	2002.5.24～2004.3.31
	構造生物学リサーチコア	2002.5.24～2007.5.23

	生体防御リサーチコア	2002.5.24～ 2010.2.19
	母子総合研究リサーチコア	2005.3.15～
情報通信	計算理工学総合リサーチコア	2002.5.24～ 2012.5.15
	大規模データからの知識発見基盤技術リサーチコア	2004.9.14～ 2014.9.13
	システム LSI 設計リサーチコア	2004.10.15～ 2009.9.17
環境	循環資源化リサーチコア	2002.5.24～ 2012.5.15
	糸島地域水循環系健全化リサーチコア	2002.5.24～
	地雷探知・除去システム開発研究リサーチコア	2002.9.20～ 2006.9.26
	地球環境科学リサーチコア	2002.5.24～ 2005.3.31
	木質エネルギーリサーチコア	2002.5.24～ 2015.5.29
	地球温暖化影響リサーチコア	2002.5.24～ 2007.5.23
ナノ・材料	極限環境科学リサーチコア	2002.5.24～ 2012.5.15
	ナノマイクロ学際融合リサーチコア	2002.5.24～
	ナノマテリアルリサーチコア	2002.5.24～ 2012.5.15
	超顕微科学リサーチコア	2002.5.24～ 2016.3.31

	シンクロトロン光応用研究リサーチコア	2002.5.24～ 2007.5.23
	極限レーザーリサーチコア	2002.5.24～ 2015.4.30
	分子情報化学創製リサーチコア	2004.9.14～ 2009.9.18
	鉄鋼材料リサーチコア	2004.9.14～ 2006.9.26
	ナノ領域超高速フォトニクスリサーチコア	2002.5.24～ 2012.5.15
	半導体ナノテクノロジーリサーチコア	2002.5.24～
	高分子機能創造リサーチコア	2002.5.24～
	無機ナノ超構造リサーチコア	2002.5.24～ 2012.5.15
	放射光利用リサーチコア	2007.7.20～ 2012.7.19
	クリーン実験ステーションリサーチコア	2009.12.18～
	プラズモニクスリサーチコア	2011.9.13～ 2016.9.12
エネルギー	加速器・ビーム応用科学リサーチコア	2002.5.24～
	地熱エネルギーリサーチコア	2002.5.24～
	量子ビーム科学リサーチコア	2002.5.24～ 2007.5.23
	水素エネルギーリサーチコア	2002.5.24～ 2012.5.15

	プラズマ・核融合科学リサーチコア	2002.5.24～ 2007.5.23
	石炭等化石資源高度利用リサーチコア	2007.7.20～ 2012.7.19
製造技術	電離気体プロセスリサーチコア	2002.5.24～ 2015.4.15
	スーパーCFRP リサーチコア	2002.5.24～ 2004.3.31
社会基盤	東アジアセンター・オン・エイジングリサーチコア	2004.3.26～
	リスクマネジメントリサーチコア	2002.5.24～ 2009.9.17
フロンティア	精密有機合成化学リサーチコア	2003.4.18～
	原子分子表面国際データセンターリサーチコア	2004.10.15～ 2009.9.17
学際・複合・新領域	アジアの現代文化リサーチコア	2002.5.24～ 2006.9.26
	アジア都市リサーチコア	2002.5.24～ 2012.5.15
	宙空環境情報ネットワーク（GIN）リサーチコア	2002.5.24～
	21 世紀地球市民育成のための政治哲学的基盤形成リサーチコア	2005.5.20～ 2015.5.19
	地球掘削科学リサーチコア	2003.3.18～
	先端複雑系科学リサーチコア	2002.5.24～ 2006.5.31
	総合防災科学リサーチコア	2002.5.24～ 2008.6.17

	デジタル・イメージリサーチコア	2004.3.26～ 2009.3.25
	ユニバーサル・デザインの研究リサーチコア	2004.3.26～ 2014.3.25
	アート・インターフェース創成リサーチコア	2004.3.26～ 2013.9.19
	感覚特性に基づく人工環境デザインリサーチコア	2004.11.19～ 2014.11.18
	超伝導理工学リサーチコア	2002.5.24～
	感性バイオセンサリサーチコア	2003.7.15～ 2013.7.14
	ロボティクスリサーチコア	2004.10.15～ 2014.10.14
	光応用医療・バイオデバイスリサーチコア	2004.11.19～ 2014.11.18
	大気と呼吸リサーチコア	2006.2.28～ 2011.2.15
	食の安全と健康な生活の構築リサーチコア	2004.3.26～ 2013.9.19
	身体運動の科学を通しての社会貢献	2009.9.18～
	グラミン・クリエイティブ・ラボ@九大	2010.3.11～ 2015.3.10
	Renovative Museology 創成リサーチコア	2010.4.21～ 2015.4.20
	情報技術による慢性疾患ディジーズマネジメントリサーチコア	2010.6.8～
	アグロインフォマティクスリサーチコア	2012.3.13～

註：終了日の示されていないものは、2016 年 12 月現在で継続中のものである。

特定大型研究プロジェクトの拠点は、①総長がプロジェクトの総括責任者等であること、②プロジェクトの申請時に総長が直轄する拠点を構築し、当該拠点においてプロジェクトを実施すること、③プロジェクトの支援をもっぱら行う事務部門が整備されていることの 3 つの要件を満たす場合に設置することができる。2011 年度までに設置された拠点は次のとおりである。

表 65-2 特定大型研究プロジェクト拠点一覧

拠　点　名	プロジェクト名	設置期間
ユーザーサイエンス機構	ユーザーを基盤とした技術・感性融合機構（科学技術振興調整費）	2007.7～2009.3
若手研究者養成部門	次世代研究スーパースター養成プログラム（科学技術振興調整費→科学技術総合推進費補助金）	2007.7～2009.9
先端融合医療レドックスナビ研究拠点	先端融合医療レドックスナビ研究拠点（科学技術総合推進費補助金→科学技術総合推進費補助金）	2007.7～
「個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻」研究拠点	個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻（グローバル COE プログラム）	2007.7～2012.3
「未来分子システム科学」研究拠点	未来分子システム科学（グローバル COE プログラム）	2007.7～2012.3
マス・フォア・インダストリ教育研究拠点	マス・フォア・インダストリ教育研究拠点（グローバル COE プログラム）	2008.7～2013.3
「新炭素資源学」研究拠点	新炭素資源学（グローバル COE プログラム）	2008.7～2013.3
「自然共生社会を拓くアジア保全生態学」研究拠点	自然共生社会を拓くアジア保全生態学（グローバル COE プログラム）	2010.4～2014.3

革新的バイオ医薬医工学の医療技術開発拠点	革新的バイオ医薬医工学の医療技術開発拠点（橋渡し研究支援推進プログラム）	2009.4～
東アジア環境研究機構	東アジア環境研究機構（特別教育研究経費→特別経費） 東アジア環境ストラテジスト育成プログラム（科学技術振興調整費）	2009.4～ 2010.5～2015.3
最先端有機光エレクトロニクス研究センター	スーパー有機 EL デバイスとその革新的材料への挑戦（最先端研究開発支援プログラム）	2010.4～

註：終了日の示されていないものは、2016 年 12 月現在で継続中のものである。

第 2 章　学術研究推進支援機構

第 1 節　設立趣旨

将来計画委員会に置かれる企画専門委員会に研究担当理事､財務担当理事、人事企画担当理事、事務局関係課長を構成員に含む「リサーチ・アドミニストレーター機構（仮称）設置検討ワーキンググループ」が設置され、リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備に係る検討を重ね、2011（平成 23）年 3 月の将来計画委員会において「学術研究推進支援機構の新設に係る計画書」を決定し、同年 4 月に「学術研究推進機構」と「産学連携推進機構」とを再編し、両機構の機能を一体的に担う組織として「学術研究推進支援機構」を設置した。

第 2 節　組　織

学術研究推進支援機構は、研究戦略企画室・知的財産本部・有体物管理センター・学術研究推進部から構成され、研究担当理事を機構長とし、機構の管理運営等に関する重要事項を審議する「研究戦略会議」を置き、研究戦略企画およびプロジェクトの管理・運営等を担う「研究戦略企画部門」、産官学連携および知的財産の管理・活用等を担う「知的財産部門」、研究関連事務支援を担う「事務支援部門」で組織されている（図 65-2）。

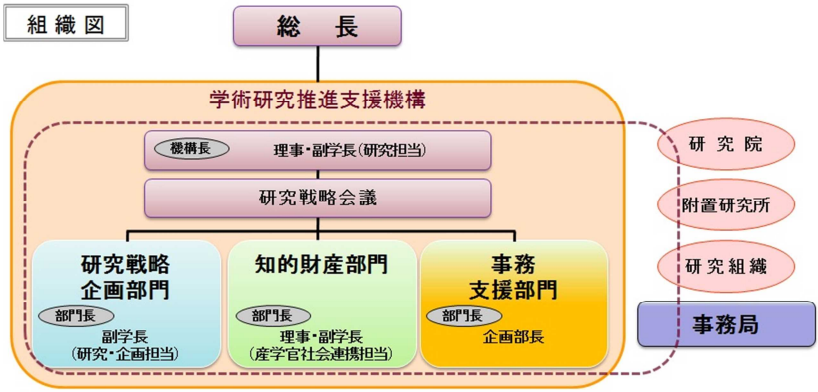

図 65-2 学術研究推進支援機構